

## 6 今年度の重点項目に対する総合評価

今年度についても5つの重点項目に対して、9つの分掌でそれぞれ重点課題と達成目標を設定し、取り組みを進めてきた。主な変更点等としては、学習活動の重点項目において、ルーブリック評価の手法を用いて自己評価させたことが挙げられる。

重点課題に定めた9課題の評価結果は、A（達成した）4課題、B（ほぼ達成した）3課題、C（やや不十分だった）2課題であった。

(1) 学習活動では3つの重点課題に取り組んだ。教科指導の充実と確かな学力の向上を目指して、生徒間の学び合い教え合いを推進するとともに、教員が互いに授業を参観する機会を通して授業改善に取り組んだ。次年度も生徒の実態に応じた学習活動に努めたい。

また、検定・資格取得の充実では全商1級検定の延べ合格者数480名以上を目標とし、1月には学校全体で7限補習授業や自由参加の学習会を実施するなど、生徒が学習内容を十分理解できるよう配慮した。

模擬株式会社「TOMI SHOP」を通じた体験学習の充実について、本年度は新たに社会人基礎力を内容とした効果測定をルーブリックによって行った。この結果を生徒の評価のみならず、今後の体験学習の充実（指導と評価の一体化）に生かしていきたい。

(2) 特別活動では2つの課題に取り組んだ。部活動については、全国大会出場はもとより、上位入賞など優秀な成績を収める部もあり、競技力向上への地道な努力が結果に結びついている。部活動を通じてさらに生徒個々の可

能性の伸長に努めたい。

読書活動では、来館を促す方策、選書の工夫、新聞注目記事紹介コーナーの設置、館内の展示、配架・ディスプレイの工夫、教科・学年との連携による進路関係の資料・情報の提供など、読書環境の整備に努めた。さらに教養講座などの図書館行事においても、生徒を引き込む工夫により充実させた。

(3) 学校生活では2つの重点課題に取り組んだ。策定した「いじめ防止基本方針」のもと、定期的ないじめ防止に向けた取り組みを行った。いじめが起こった場合の早期対応を図っている。具体的な対処法について、事例を踏まえ蓄えていきたい。

また、全校集会、各種講話などを通して、事故やけがの防止に関する意識の向上を図っている。事故の発生率全体としては、昨年より減少したが、部活動中の事故、登下校時の交通事故発生率が依然高い現状である。

(4) 進路支援では、担任、学年との連携を密にし、生徒の進路希望状況の把握、進路情報の適切な提供、面接・小論文指導の充実など、多様な生徒の進路希望に応える取り組みを行った。今後も生徒に自分の進路を早くから意識させ、じっくり考えさせる機会を設けるなど、必要な方策に取り組んでいきたい。

(5) P T A活動では、会議や行事の日程設定を工夫するとともに、事前に保護者の希望を集約し、自主的・積極的に参加できる研修会を立案するなど、保護者が参加しやすい運営に努めてきた。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

中長期ビジョンを踏まえ、次のような観点から教育活動の充実を目指して、検討・実践を重ねていきたい。

- (1) 基礎学力の向上を図り、ビジネスを理解・実践する力と豊かな人間性を身に付けさせる。
- (2) 生徒各人の可能性を伸長し、目標に向かってねばり強く取り組ませるための教育活動を推進する。
- (3) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、コミュニケーション能力を高めるための教育活動の充実・改善に努める。
- (4) 生徒が将来の職業生活を見据え、高度な資格取得に挑戦することや、主体的に進路を考えることができるように、自己実現に向けた支援に努める。
- (5) 模擬株式会社「TOMI SHOP」など地域社会や保護者と連携した活動を通じて、勤労観・職業観の育成に努めるとともに、地域社会に貢献できる職業人を育成するための教育活動を推進する。